

自立をふまえて（どの子ども共に生き，共に育つ）

～一人ひとりの実態をふまえた支援のあり方～

I 主題設定の理由

近年，全国的にインクルーシブ教育が周知され基礎的環境整備・合理的配慮が進んできている中，東山梨地区の特別支援学級数は増えており，1学級の在籍児童生徒数は変動し，知的・情緒・肢体不自由・難聴・弱視と多様な障害にわたり，なおかつその程度も重くなってきている。また，通常級においても数パーセント在籍するといわれる支援を必要とする児童への対応も急務とされ，一つひとつの学級が抱える悩みは深くかつ多様化しているのが現状である。そして，在籍・通級及び特別に支援を必要としている子どもたち一人ひとりの障害の状況や発達段階，その特性に合わせた支援は，どの学級についても共通した重要な研究課題である。

そこで本年度も，授業実践・学習会・情報交換などを通して，児童生徒の理解と支援方法などを模索し，児童生徒一人ひとりの実態に合わせた支援内容，支援の方法に迫るべく本主題を設定した。

II 研究の内容と方法

1 研究の具体的な内容と方法

- (1) 全体会や小・中部会ごとに講師を招いて学習会を行い，理解を深める。
- (2) 中部会ごとにテーマを絞って児童生徒の実態を考えた教材研究を行い，個に応じた授業づくりをする。統一授業研に向け，部会員一人ひとりが研究授業をするという意識をもち略案を持ち寄ることにより，部会全体で授業者を支え児童にとっての有効な支援・授業構成をより深く追求していく。統一授業研では，指導助言者を招いて研究を深める。
- (3) 小部会ごとに情報交換や授業研を見据えた実践発表を行い，一人ひとりの児童の実態をふまえた効果的な支援のあり方を探る。
- (4) 授業実践や報告の方法や形態について話し合い，次年度に向けて見通しを持つ。

2 学習会の実施

- ・ 8月3日 〈全体会〉

飯嶋 多三恵先生（かえで支援学校 地域支援教育担当）

「インクルーシブな教育～一人ひとりの実態を見据えて～」

- ・ 1月13日 〈中部会〉

飯嶋 多三恵先生（かえで支援学校 地域支援教育担当）

「算数科 概数の授業の支援のあり方」

3 授業研究

- (1) 知的障害部会授業研究

算数科「およその数について知ろう（買い物学習を通して）」

授業者：三富小学校 古屋 美知子教諭

指導・助言者：かえで支援学校 飯嶋 多三恵先生

(2) 自閉情緒・通常学級部会授業研究

自立活動「節分を楽しむ会をしよう」

授業者：塩山南小学校 那口 真知子教諭

甘利 志賀峰教諭

指導・助言者：大和小学校 岡 利光校長先生

県指導主事 岡 輝彦先生

4 小部会研究

(1) 甲州知的障害部会 (2) 山梨知的障害部会

(3) 自閉症・情緒障害部会 (4) 通常学級における特別支援教育小部会

III 成果と課題

1 成果

- (1) 学習会では、インクルーシブ教育や自立活動など部会員の希望に添ったタイムリーな内容であり、多くの書籍の紹介とすぐに実践できそうな具体的な支援方法を教えていただけ、明日からの実践につながるものであった。専門的な立場の講師から話を聞き、広い視野をもつことができ有意義であった。
- (2) 小部会研究では、各校の児童の特性・事態について実践報告や情報交換をすることができ、どのような支援が効果的かを話し合い、各自の日々の実践に生かすことができた。悩みを共有し、有効な手だてや資料はメールや紙面でやりとりし活用することができた。
- (3) 統一授業研に向け、各中部会で研究授業を見据え一人ひとりが授業をすると意識して実践報告や資料・略案提案したことで、「一人ひとりの実態をふまえた支援のあり方」というテーマにせまる研究につながった。指導案検討の段階から助言者に指導を受けることができた点も有効であった。
- (4) 以前から課題として出されている統一授業研をもつ時期について見通しをもちながら進めることができ、児童の特性から考えて後期に実施することがよいとの結論を確認することができた。

2 課題

学校内では、特別支援学級在籍児童だけでなく、様々な児童について支援を求められている。そうした要求にも対応できるよう通常学級の中の支援の必要な児童について話し合う機会も必要と思われる。全国的にインクルーシブ教育が周知され基礎的環境整備・合理的配慮が進みつつある中、特別支援学級の担任だけでなく、小中各校様々な立場から研究に参加してもらい、本部会研究にも様々な視点から指導・助言いただき、討議できるとよい。

(部長 吉岡 美奈子)